

(表3-8-5-4) 排泄介護拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン18	パターン17
声かけの工夫	101	1256	256	145	105	86	67	67	55	55	40	40	37	32	31	23	10		
	102	6.4	2.1	6.9	13.7	7.0	7.6	0.2	3.9	11.7	9.1	7.3	7.7	5.8	2.7	8.6	0.1		
	103	2.9	1.9	1.3	3.0	0.2	0.3	0.0	24.7	0.3	4.8	4.2	0.2	0.0	0.0	0.0	4.4		
	104	5.2	1.3	5.3	0.7	1.3	3.9	16.8	4.5	11.4	10.9	6.5	6.8	8.2	6.1	4.5	10.2		
	105	14.4	6.2	12.0	7.8	4.1	17.3	38.9	5.7	4.9	17.7	12.8	35.9	20.1	11.9	7.3	13.7		
	106	6.5	7.1	7.2	6.8	6.1	6.1	2.9	3.6	6.6	3.2	3.0	4.0	11.6	7.7	0.0	10.1		
	107	0.2	0.0	0.0	0.9	1.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0		
	108	1.0	0.8	0.0	0.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0		
	109	0.2	0.1	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	110	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	111	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	112	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	113	12.3	18.8	17.9	26.3	13.2	16.4	4.5	3.1	3.6	4.7	15.6	0.7	1.9	3.9	10.1	0.3		
	114	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	115	0.2	0.2	0.2	0.1	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	116	0.3	0.3	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	117	0.3	0.4	1.2	0.2	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.5	0.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0		
	118	7.2	4.6	5.1	6.0	7.4	5.0	10.9	15.7	10.7	2.6	6.9	2.5	3.3	21.4	21.4	9.4		
	119	4.1	1.8	4.3	2.8	7.9	4.8	2.7	7.9	3.0	5.4	5.8	0.1	6.7	3.6	4.5	4.7		
120	8.5	3.9	9.7	5.6	5.3	7.7	8.2	8.9	11.2	6.6	12.0	6.8	10.9	5.3	17.2	21.9			
121	5.0	5.3	3.8	3.8	3.8	4.7	2.9	7.4	2.7	2.7	6.2	8.1	8.3	5.2	0.1	0.3			
122	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	1.1	0.3	1.4	0.0	0.0			
123	0.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0			
124	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
125	0.6	0.4	2.0	3.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0			
126	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
127	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
128	0.2	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
129	0.6	0.0	1.4	1.0	0.0	0.1	1.5	1.0	0.2	0.1	1.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0			
130	13.6	35.2	12.6	6.6	15.1	18.2	5.1	5.3	7.7	0.9	4.0	0.9	4.6	1.6	6.7	15.8			
131	2.1	4.6	0.9	1.0	4.0	1.2	1.0	1.0	0.4	0.3	0.1	5.2	1.8	0.6	0.3	8.4			
132	0.6	1.2	0.7	0.0	3.7	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1			
133	0.2	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0			
134	5.0	2.3	5.2	3.4	4.4	4.5	1.3	1.9	22.6	0.5	7.9	16.4	3.4	7.3	10.4	4.4			
135	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	1.5	0.0	0.0	2.0	0.1	0.3	0.0	0.0			
136	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	0.1	0.0	0.0			
137	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0			
138	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
139	0.3	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.8	0.0	1.4	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0			

(注) 横軸はクラス別集計による集計

(表 3-8-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	放っておく	無理にトイレに連れて行く	無理やり交換する	声かけせず無言で行う	何度もしつこく声をかける	臭い、汚いからなどの声かけ	その他
実数	286	242	226	237	247	215	230	42
パーセント	100.0	84.6	79.0	82.9	86.4	75.2	80.4	14.7

## 8. 排泄誘導拒否への成功事例調査

### 1) 回答者属性

本調査の回答 270 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

#### (1) 年齢

有効回答 265 件における回答者の平均年齢は、41.6 歳 (SD13.1 歳) で最少年齢が 19 歳、最高年齢が 89 歳であった。(表 3-9-1-1 参照)

#### (2) 性別割合

有効回答 268 件中、回答者の性別割合は男性が 77 件 (28.7%)、女性が 191 件 (71.3%) と女性の割合が多かった。(表 3-9-1-2 参照)

#### (3) 職名の割合

有効回答 250 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 107 件 (42.8%)、ケアマネージャーが 71 件 (28.4%)、看護師が 13 件 (5.2%)、相談員が 6 件 (2.4%) となっている。(表 3-9-1-3 参照)

#### (4) 役職の割合

有効回答 254 件中、回答者の役職の割合は、主任・リーダーが 77 件 (30.3%)、管理者が 74 件 (29.1%)、施設長が 10 件 (3.9%)、理事長が 1 件 (0.4%) で、95 件 (37.4%) が役職なしであった。(表 3-9-1-4 参照)

#### (5) 資格の所有割合

有効回答 262 件中、回答者の資格の所有割合は、介護福祉士が 166 件 (63.4%)、ヘルパーが 98 件 (37.4%)、ケアマネージャーが 89 件 (30.4%)、看護師 (准看護師) が 20 件 (7.6%)、社会福祉士が 11 件 (4.2%) であった。(表 3-9-1-5 参照)

#### (6) 所属事業種の割合

有効回答 265 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 256 件 (96.6%)、小規模多機能型通所介護事業が 5 件 (1.9%)、介護老人福祉施設 (ユニット型) が 4 件 (1.5%)、介護老人福祉施設が 2 件 (0.8%) であった。(表 3-9-1-6 参照)

#### (7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 268 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、3.9 年 (SD2.8 年) で最少が 0.1 年、最高が 19.7 年であった。(表 3-9-1-7 参照)

#### (8) 総介護経験年数

有効回答 268 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.4 年 (SD5.8 年) で最少が 0.3 年、最高が 47.0 年であった。(表 3-9-1-8 参照)

### 2) 排泄誘導拒否の解決経験

本調査に回答を得た 270 件における排泄誘導拒否の解決経験、解決した高齢者に

関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

(1) 解決経験の有無

有効回答 268 件中、排泄誘導拒否で解決経験があるのは 238 件 (88.8%) であった。(表 3-9-2-1 参照)

(2) 高齢者の状態

① 年齢

解決経験がある 238 件のうち有効回答 221 件における高齢者の平均年齢は、84.3 歳 (SD6.2 歳) で最少年齢が 66 歳、最高年齢が 103 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 72 件 (32.6%) で最も多い。(表 3-9-2-2 参照)

② 性別

性別割合は、有効回答 235 件中、男性が 44 件 (18.7%)、女性が 191 件 (81.3%) と女性が多い。(表 3-9-2-3 参照)

③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 210 件中、アルツハイマー型が 117 件 (55.7%)、脳血管疾患型が 60 件 (28.6%)、前頭側頭型が 3 件 (1.4%)、混合が 10 件 (4.8%) であった。(表 3-9-2-4 参照)

④ 身体機能の障害とADL

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 238 件中、下肢が 60 件 (25.2%)、体幹が 5 件 (2.1%)、上肢が 2 件 (0.8%)、首が 1 件 (0.4%) であり、残りの 170 件 (71.4%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 3-9-2-5 参照)

【食事介助】

食事介助は、有効回答 227 件中、自立が 167 件 (73.6%)、一部介助が 56 件 (24.7%)、全介助が 4 件 (1.8%) であった。(表 3-9-2-6 参照)

【移動】

移動は、有効回答 192 件中、短距離歩行自立が 116 件 (60.4%)、長距離歩行自立が 44 件 (22.9%)、杖自立が 29 件 (15.1%) であった。(表 3-9-2-7 参照)

【排泄】

排泄は、有効回答 206 件中、身体介助必要が 127 件 (61.7%)、身体介助必要なしが 79 件 (38.3%) であった。(表 3-9-2-8 参照)

【入浴】

入浴は、有効回答 229 件中、全介助が 50 件 (21.8%)、洗身洗髪介助が 95 件 (41.5%)、移動介助が 40 件 (17.5%)、その他一部介助が 44 件 (19.2%) であった。(表 3-9-2-9 参照)

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 231 件中、ランク I が 13 件 (5.6%)、ランク II が 32 件 (13.9%)、ランク III が 112 件 (48.5%)、ランク IV が 66 件 (28.6%)、ランク V が 8 件 (3.5%) であった。(表 3-9-2-10 参照)

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 223 件中、J ランクが 16 件 (7.2%)、A ランクが 163 件 (73.1%)、B ランクが 41 件 (18.4%)、C ランクが 3 件 (1.3%) であった。(表 3-9-2-11 参照)

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、排泄介助で身体介助必要なし (60.5%) が多く、身体障害の重症度で A ランク (86.5%) と J ランク (12.8%) に集中し、認知症の重症度でランク III (53.8%) が多いことから、これを「自立、軽中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 164 件のうち 108 件 (65.9%) が該当する。

第 2 パターンは、排泄介助で身体介助必要 (97.0%) が多く、身体障害の重症度で B ランク (48.8%) と A ランク (45.6%) が多く、認知症の重症度でランク IV (49.4%) とランク III (31.9%) が多いことから、これを「介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 56 件 (34.1%) が該当する。(表 3-9-2-12 参照) (潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-9-2-13 参照)

(注 1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、排泄介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として A I C や B I C などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事案件数は確率的に求めた件数である(注 2 参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

### 3) 解決前と解決後の変化

排泄誘導拒否で解決経験がある 238 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出した。

#### (1) 解決前の状況

排泄誘導拒否が解決される前の状況としては、有効回答 238 件中、「リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった」が 132 件 (55.5%)、「トイレ誘導を定時で行うが拒否された」が 105 件 (44.1%)、「強く拒否し、強い口調で怒った」が 100 件 (42.0%)、「色々と理由をつけて、拒否した」が 73 件 (30.7%)、「トイレまでは行くがズボンを下げなかった」が 52 件 (21.8%) であった。(表 3-9-3-1 参照)

#### (2) 解決後の状況

排泄誘導拒否が解決された後の状況としては、有効回答 238 件中、「最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった」と「トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った」が各 98 件 (41.2%)、「拒否されることが多いが、渋々行くようになってきた」が 56 件 (23.5%)、「トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった」が 35 件 (14.7%)、「タンズの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった」が 21 件 (8.8%) であった。(表 3-9-3-2 参照)

### 4) 排泄誘導拒否の解決方法

排泄誘導拒否で解決経験がある 238 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

#### (1) 解決方法の概況

排泄誘導拒否を解決する時に行った方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 43 分類した。分類結果は、誘導時間に関するものが 2 分類、誘導の工夫に関するものが 16 分類、介助の工夫に関するものが 9 分類、コミュニケーションに関するものが 13 分類、その他が 3 分類であった。

有効回答 237 件のなかで多くあがったものは、「排泄パターンに応じ」が 177 件 (74.7%)、「本人の行動・状態に応じて」が 149 件 (62.9%)、「移動時」が 133 件 (56.1%)、「会話をしながら」が 123 件 (51.9%)、「賞賛、ほめる」が 117 件 (49.4%)、「定時声かけ」が 114 件 (48.1%)、「トイレという言葉を使用しない」が 97 件 (40.9%)、「すばやく」が 90 件 (38.0%)、「本人だけに」が 79 件 (33.3%)、「衛生・疾病の説明」が 51 件 (21.5%)、「パッド交換は職員で」が 49 件 (20.7%)、「パッドをすばやく片付ける」が 46 件 (19.4%)、「他者と一緒に」が 43 件 (18.1%)、「おしりの状態をみる」が 39 件 (16.5%)、「職員と一緒に」が 34 件 (14.3%)、「トイレ以外の理由で誘導」が 32 件 (13.5%)、「慣れた言葉」が 26 件 (11.0%) などであり、1 事例あたり平均 6.4 項目であった。(表 3-9-4-1 参照)

## 5) 排泄誘導拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,420 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

### (1) 役立った情報の概況

有効回答 1,420 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 599 件 (42.2%)、「本人の気持ち、意志」が 559 件 (39.4%)、「スタッフとの関係」が 333 件 (23.5%)、「気分」が 252 件 (17.7%)、「性格」が 212 件 (14.9%)、「排泄・排尿時間」と「排泄間隔」が 173 件 (12.2%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.8 項目あげられた。(表 3-9-5-1 参照)

### (2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 20 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 1.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.9%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(24.7%)、「性格」(19.1%) などで構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 157 件 (11.1%) である。

第 2 パターンは平均 3.2 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(81.6%) を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(62.4%)、「性格」(53.8%)、「気分」(46.1%)、「スタッフとの関係」(27.3%) などで構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 140 件 (9.9%) である。

第 3 パターンは平均 1.9 項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(50.7%)、「他の入居者との関係」(32.1%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(29.1%)、「性格」(29.1%) などで構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 110 件 (7.7%) である。

第 4 パターンは平均 3.0 項目の組み合わせであり、「誘導の時間帯」(73.7%)、「排泄・排尿時間」(67.2%)、「排泄間隔」(40.4%)、「排泄頻度」(40.0%) などの“排泄行動”を主として構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 106 件 (7.5%) である。

第 5 パターンは平均 1.7 項目と最少の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%) を共通ベースとして、「他の入居者との関係」(12.1%) などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 92 件 (6.5%) である。

第 6 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「気分」(99.6%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(39.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り

方」(21.7%)などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ90件(6.3%)である。

第7パターンは平均3.6項目の組み合わせであり、「失禁状況」(47.5%)、「排泄状況」(43.0%)、「失禁有無」(40.5%)、「水分状態」(25.7%)、「便の状態」(20.6%)、「尿意・排泄感覚」(29.2%)、「本人の気持ち、意志」(20.2%)などで構成されている。第7パターンの該当方法は延べ86件(6.0%)である。

第8パターンは平均3.1項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(85.0%)を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(78.4%)、「本人の気持ち、意志」(72.9%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ84件(5.9%)である。

第9パターンは平均2.1項目の組み合わせであり、「性格」(30.3%)、「本人の気持ち、意志」(26.9%)、「生活習慣(ここ数年)」(24.7%)、「排泄に関する生活習慣」(22.4%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ84件(5.9%)である。

第10パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「抵抗時の表情」(99.7%)を共通ベースとして、「抵抗時の様子」(57.5%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(35.2%)、「本人の気持ち、意志」(28.0%)、「性格」(22.3%)などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ60件(4.2%)である。

第11パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(63.1%)、「本人の気持ち、意志」(44.7%)、「尿意・排泄感覚」(40.9%)、「排泄・排尿時間」(36.9%)、「パッドの必要性」(26.7%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(20.5%)などで構成されている。第11パターンの該当方法は延べ55件(3.9%)である。

第12パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.0%)と「スタッフとの関係」(97.2%)を共通ベースとして、「気分」(69.8%)、「本人の気持ち、意志」(64.2%)などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ54件(3.8%)である。

第13パターンは平均2.8項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(56.0%)、「排泄に関する生活習慣」(38.5%)、「排泄場所」(34.7%)、「本人の気持ち、意志」(29.2%)、「スタッフとの関係」(27.1%)などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ51件(3.6%)である。

第14パターンは平均2.8項目の組み合わせであり、「興味・関心」(99.6%)を共通ベースとして、「気分」(44.3%)と「本人の気持ち、意志」(37.3%)を含めた“心理面”を主として構成されている。第14パターンの該当方法は延べ49件(3.5%)である。

第15パターンは平均3.1項目の組み合わせであり、「排泄間隔」(89.4%)、「排泄頻度」(61.2%)、「排泄・排尿時間」(59.3%)など“排泄行動”を主として構成されている。第15パターンの該当方法は延べ49件(3.5%)である。



第 16 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.7%)と「本人の気持ち、意志」(95.3%)を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」(22.4%)、「生活習慣(ここ数年)」(22.0%)などで構成されている。第 16 パターンの該当方法は延べ 44 件(3.1%)である。

第 17 パターンは平均 4.5 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(93.2%)を共通ベースとして、「排泄間隔」(45.5%)、「排泄・排尿時間」(39.2%)、「排泄頻度」(36.3%)、「スタッフとの関係」(34.4%)、「誘導の時間帯」(28.3%)、「性格」(23.4%)などで構成されている。第 17 パターンの該当方法は延べ 42 件(3.0%)である。

第 18 パターンは平均 3.6 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(85.9%)を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(38.0%)、「失禁状況」(37.8%)、「失禁有無」(28.1%)などで構成されている。第 18 パターンの該当方法は延べ 42 件(3.0%)である。

第 19 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「失禁有無」(34.8%)、「気分」(26.0%)、「認知症の種類」(22.2%)、「排泄状況」(20.1%)などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 18 件(1.3%)である。

第 20 パターンは平均 7.9 項目と最多の組み合わせであり、「生活歴(幼少期から)」(79.0%)を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(59.4%)、「スタッフとの関係」(59.3%)、「現病・既往歴」(58.4%)などで構成されている。第 19 パターンの該当方法は延べ 5 件(0.4%)である。(表 3-9-5-2 参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-9-5-3 参照)

### (3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第 15 パターン(「排泄間隔」、「排泄頻度」、「排泄・排尿時間」など“排泄行動”を主として構成された平均 3.1 項目の組み合わせ)は、「排泄パターンに応じ」が 59.3%、「定時声かけ」が 20.6%と多い。

第 4 パターン(「誘導の時間帯」、「排泄・排尿時間」、「排泄間隔」、「排泄頻度」などの“排泄行動”を主として構成された平均 3.0 項目の組み合わせ)は、「定時声かけ」が 41.7%、「排泄パターンに応じ」が 35.1%と多い。

第 7 パターン(「失禁状況」、「排泄状況」、「失禁有無」、「水分状態」、「便の状態」、「尿意・排泄感覚」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.6 項目の組み合わせ)は、「排泄パターンに応じ」が 40.6%と多い。

第 20 パターン(「生活歴(幼少期から)」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」、「現病・既往歴」などで構成された平均 7.9 項目と最多の組み合わせ)は、「信頼関係の構築」が 39.2%、「衛生・疾病の説明」が 19.8%、「本人の行動・状態に応じて」が 19.6%、「外出してから」が 19.5%と多い。

第 11 パターン（「排泄間隔」、「本人の気持ち、意志」、「尿意・排泄感覚」、「排泄・排尿時間」、「パッドの必要性」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 3.5 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 34.8%、「定時声かけ」が 18.2%と多い。

第 19 パターン（「失禁有無」、「気分」、「認知症の種類」、「排泄状況」などで構成された平均 2.6 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 30.2%、「おしりの状態をみる」が 14.9%と多い。

第 8 パターン（「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 3.1 項目の組み合わせ）は、「移動時」が 13.4%、「賞賛、ほめる」が 13.2%と多い。

第 17 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「排泄間隔」、「排泄・排尿時間」、「排泄頻度」、「スタッフとの関係」、「誘導の時間帯」などで構成された平均 4.5 項目の組み合わせ）は、「排泄パターンに応じ」が 27.4%と多い。

第 14 パターン（「興味・関心」を共通ベースとして、「気分」と「本人の気持ち、意志」を含めた“心理面”を主として構成された平均 2.8 項目の組み合わせ）は、「トイレという言葉を使用しない」が 25.5%、「トイレ以外の理由で誘導」が 19.0%と多い。

第 10 パターン（「抵抗時の表情」を共通ベースとして、「抵抗時の様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「排泄状況」、「本人の気持ち、意志」、「性格」などで構成された平均 3.3 項目の組み合わせ）は、「本人の行動・状態に応じて」が 23.8%と多い。

第 12 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「気分」、「本人の気持ち、意志」などで構成された平均 4.0 項目の組み合わせ）は、「会話をしながら」が 23.6%と多い。

第 6 パターン（「気分」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.5 項目の組み合わせ）は、「本人の行動・状態に応じて」が 19.7%、「会話をしながら」が 16.8%と多い。

第 1 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」、「性格」などで構成された平均 1.8 項目の組み合わせ）は、「移動時」が 17.7%と多い。

第 16 パターン（「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「尿意・排泄感覚」、「生活習慣（ここ数年）」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ）は、「トイレという言葉を使用しない」が 17.2%と多い。（表 3-9-5-4 参照）

#### 6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 255 件中、「強制・命令・指示的な声かけ」が 249 件 (97.6%)、「尿意や便意のサインを無視し放っておく」が 248 件 (97.3%)、「失敗をしかる」が 247 件 (96.9%)、「失敗が周囲の人にわかるような言動」が 244 件 (95.7%)、「衣類等の汚れを見て見ぬふりして交換しない」が 237 件 (92.9%)、「子供を扱うような言い方」が 237 件 (92.9%)、「無理にトイレに連れて行く」が 222 件 (87.1%)、「他利用者に聞こえるようなトイレ誘導、ことばかけ」が 214 件 (83.9%)、「オムツ・紙パンツの安易な使用」が 193 件 (75.7%)、「自力でトイレに行ったとき、そのまま見過ごす」が 187 件 (73.3%) となっている。(表 3-9-6-1 参照)

(表3-9-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	265	17	39	44	31	28	21	33	37	15
パーセント	100.0	6.4	14.7	16.6	11.7	10.6	7.9	12.5	14.0	5.7

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
265	41.6	13.1	19	89

(表3-9-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	268	77	191
パーセント	100.0	28.7	71.3

(表3-9-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	250	107	6	71	13	75
パーセント	100.0	42.8	2.4	28.4	5.2	30.0

(表3-9-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	254	10	74	77	0	1	95
パーセント	100.0	3.9	29.1	30.3	0.0	0.4	37.4

(表3-9-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	262	20	166	11	89	98	24
パーセント	100.0	7.6	63.4	4.2	34.0	37.4	9.2

(表3-9-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	265	2	4	256	5	1
パーセント	100.0	0.8	1.5	96.6	1.9	0.4

(表3-9-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
268	3.9	2.8	0.1	19.7

(表 3-9-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
268	8.4	5.8	0.3	47.0

(表 3-9-2-1) 排泄誘導拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	268	238	30
パーセント	100.0	88.8	11.2

(表 3-9-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上
実数	221	13	31	72	60	45
パーセント	100.0	5.9	14.0	32.6	27.1	20.4

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
221	84.3	6.2	66	103

(表 3-9-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	235	44	191
パーセント	100.0	18.7	81.3

(表 3-9-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマー型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	210	117	60	3	10	20
パーセント	100.0	55.7	28.6	1.4	4.8	9.5

(表 3-9-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	238	1	2	60	5	170
パーセント	100.0	0.4	0.8	25.2	2.1	71.4

(表 3-9-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	227	4	56	167
パーセント	100.0	1.8	24.7	73.6

(表3-9-2-7) 移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他(回答者追記)
実数	192	29	116	44	3
パーセント	100.0	15.1	60.4	22.9	1.6

(表3-9-2-8) 排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	206	127	79
パーセント	100.0	61.7	38.3

(表3-9-2-9) 入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	229	50	40	95	44	0
パーセント	100.0	21.8	17.5	41.5	19.2	0.0

(表3-9-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	231	13	32	112	66	8
パーセント	100.0	5.6	13.9	48.5	28.6	3.5

(表3-9-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	223	16	163	41	3
パーセント	100.0	7.2	73.1	18.4	1.3

(表 3-9-2-12) 排泄誘導拒否高齢者のパターン  
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=164)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			自立、軽中 程度重症度	介助、中高 程度重症度
サイズ		1.000	0.659	0.341
性別	男	0.189	0.155	0.254
	女	0.811	0.845	0.746
排泄介助	身体介助必要	0.592	0.395	0.970
	身体介助必要なし	0.409	0.605	0.030
認知症の 重症度	I	0.031	0.033	0.026
	II	0.146	0.173	0.095
	III	0.463	0.538	0.319
	IV	0.323	0.235	0.494
	V	0.037	0.021	0.067
身体障害の 重症度	J	0.092	0.128	0.020
	A	0.726	0.865	0.456
	B	0.171	0.007	0.488
	C	0.012	0.000	0.036

(参考)該当事例数 → (164) (108) (56)

(表 3-9-2-13) 潜在クラスモデル評価 (排泄誘導拒否高齢者パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1094.9	1067.0
モデル2(クラス数2)	1107.0	1048.1
モデル3(クラス数3)	1147.7	1057.9
モデル4(クラス数4)	1189.6	1068.7

(表 3-9-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	強く拒否し、強い口調で怒った	リハビリパンツ、パッドが尿や便で汚染され不衛生であった	トイレ誘導を定時で行うが拒否された	トイレまでは行くがズボンを下げなかった	色々理由をつけて、拒否した	その他
実数	238	100	132	105	52	73	17
パーセント	100.0	42.0	55.5	44.1	21.8	30.7	7.1

(表 3-9-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	最初は軽く拒否するが、その後素直に応じるようになった	タンスの中に隠していた使用済みパッドが少なくなった	トイレ誘導に応じる回数が増え、失禁も減った	拒否されることが多いが、洗々行くようになってきた	トイレ誘導をしなくてもトイレへ行くようになった	その他
実数	238	98	21	98	56	35	28
パーセント	100.0	41.2	8.8	41.2	23.5	14.7	11.8



(表 3-9-4-1) 排泄誘導拒否の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%	
有効回答数			237	100.0	
誘導時間	101	排泄パターンに応じ	177	74.7	
	102	定時声かけ	114	48.1	
誘導の工夫	201	本人の行動・状態に応じて	149	62.9	
	202	トイレ以外の理由で誘導	32	13.5	
	203	会話をしながら	123	51.9	
	204	他者と一緒に	43	18.1	
	205	職員と一緒に	34	14.3	
	206	慣れた言葉	26	11.0	
	207	本人だけに	79	33.3	
	208	トイレという言葉を使用しない	97	40.9	
	209	移動時	133	56.1	
	210	説明と納得	10	4.2	
	211	着替えの促し	3	1.3	
	213	気分の良いときに	2	0.8	
	214	外出してから	1	0.4	
	215	家族による説明・誘導	1	0.4	
	216	トイレを見せ認識を促す	1	0.4	
	290	その他	1	0.4	
介助の工夫	301	おしりの状態をみる	39	16.5	
	302	すばやく	90	38.0	
	303	パッドをすばやく片付ける	46	19.4	
	305	見守り、外でまつ	6	2.5	
	306	極力本人で、部分介助	4	1.7	
	308	静かなところで介助	1	0.4	
	309	トイレ室温	1	0.4	
	310	介助者の性別考慮	4	1.7	
	390	その他	13	5.5	
	コミュニケーション	401	賞賛、ほめる	117	49.4
402		トイレ備品の使用について声かけ	16	6.8	
403		お金の心配払拭	15	6.3	
404		衛生・疾病の説明	51	21.5	
405		パッド交換は職員で	49	20.7	
407		好きな話題で	2	0.8	
408		やさしく、笑顔で	3	1.3	
409		本人の思いを傾聴する	1	0.4	
410		わかりやすく伝える	1	0.4	
411		慰め	1	0.4	
412		日頃のコミュニケーション量増やす	2	0.8	
413		信頼関係の構築	10	4.2	
490		その他	2	0.8	
その他		501	トイレ表示の工夫	1	0.4
		502	排泄用具の代替	2	0.8
	590	その他	7	3.0	

(参考)平均記入項目数 → 6.4

(表 3-9-5-1) 排泄誘導拒否の解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
		計 (延解決方法件数)	1,420	100.0
認知能力	1	認知機能	50	3.5
	2	認知症の種類	14	1.0
	3	見当識	11	0.8
	4	認知症罹患期間	2	0.1
健康面	5	服薬状況	17	1.2
	6	現病・既往歴	22	1.5
	7	失禁有無	82	5.8
	8	水分状態	45	3.2
	9	便の状態	34	2.4
	10	失禁状況	93	6.5
	11	睡眠時間・状況	27	1.9
	12	皮膚疾患	26	1.8
	13	排泄状況	65	4.6
能力・機能	14	歩行・下肢機能	34	2.4
	15	視覚機能	2	0.1
	16	言語能力	20	1.4
	18	尿意・排泄感覚	118	8.3
心理面	19	気分	252	17.7
	20	本人の気持ち、意志	559	39.4
	21	興味・関心	78	5.5
排泄行動	22	排泄・排尿時間	173	12.2
	23	排泄間隔	173	12.2
	24	排泄頻度	115	8.1
	25	排泄場所	47	3.3
	26	抵抗が始まった時期	11	0.8
	27	排泄に関する生活習慣	74	5.2
	28	パッドの必要性	58	4.1
	29	誘導の時間帯	139	9.8
	抵抗時の状態	30	抵抗時の様子	100
31		抵抗時の表情	100	7.0
生活習慣	32	生活状況(数日内)	26	1.8
	33	生活習慣(ここ数年)	75	5.3
	34	生活歴(幼少期から)	34	2.4
環境	35	交換場所	35	2.5
	36	施設環境	31	2.2
人間関係	37	他の入居者との関係	73	5.1
	38	スタッフとの関係	333	23.5
	39	家族関係	6	0.4
介護者の対応	40	スタッフの声かけ内容・見守り方	599	42.2
	41	介護者の性別	57	4.0
その他	42	性格	212	14.9

(参考)平均記入項目数 → 2.8



(表3-9-5-3) 潜在クラスモデル評価 (排泄誘導拒否の解決に役立った情報の組み合わせパターン)

(情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	24228.0	24012.4	0.0000	0.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	23415.4	22978.9	0.0619	0.785	0.736	0.776
モデル3(クラス数3)	23355.8	22698.5	0.0657	0.767	0.765	0.775
モデル4(クラス数4)	23501.1	22622.9	0.1866	0.652	0.633	0.604
モデル5(クラス数5)	23692.3	22593.2	0.1986	0.687	0.657	0.609
モデル6(クラス数6)	23873.6	22553.7	0.2136	0.677	0.666	0.604
モデル7(クラス数7)	24047.3	22506.6	0.1904	0.734	0.725	0.668
モデル8(クラス数8)	24276.1	22514.5	0.1617	0.781	0.756	0.712
モデル9(クラス数9)	24482.0	22499.5	0.1411	0.819	0.798	0.758
モデル10(クラス数10)	24719.6	22516.3	0.2292	0.704	0.713	0.630
モデル11(クラス数11)	24927.8	22503.7	0.1984	0.739	0.746	0.671
モデル12(クラス数12)	25216.4	22571.4	0.2192	0.716	0.745	0.651
モデル13(クラス数13)	25422.5	22556.7	0.2010	0.744	0.761	0.675
モデル14(クラス数14)	25690.8	22604.1	0.1930	0.751	0.765	0.683
モデル15(クラス数15)	25874.3	22566.7	0.2092	0.755	0.763	0.667
モデル16(クラス数16)	26155.2	22626.8	0.2415	0.705	0.729	0.623
モデル17(クラス数17)	26442.5	22693.2	0.2472	0.716	0.738	0.622
モデル18(クラス数18)	26653.0	22682.9	0.2219	0.737	0.758	0.655
モデル19(クラス数19)	26971.3	22780.3	0.2322	0.705	0.750	0.638
モデル20(クラス数20)	27189.9	22778.1	0.2009	0.774	0.795	0.690